包む―日本の伝統パッケージ

TSUTSUMU：The Origin of Japanese Packaging

2021年7月13日[火]～9月5日[日]

目黒区美術館　Meguro Museum of Art, Tokyo

午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）
月曜休館（ただし8月9日[月休]は開館、8月10日[火]は休館）
一般800(600)円、大高生・65歳以上600(500)円、中学生以下無料
・障がいのある方とその付添者1名は無料、( )内は20名以上の団体料金
・目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示頂くと団体料金になります（他の割引と併用はできません）
主催：公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館
企画協力：吉田知哉(株式会社コンセント)、佐賀一郎(多摩美術大学)
◎新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、会期等が変更になる場合がございます

❶《卵つと》 山形県　撮影：酒井道一

1972年に出版された写真集**『包』**(毎日新聞社刊)は、すでに絶版となっているものの、愛蔵書として今なお読み継がれています。この本の著者は**岡秀行**(おか ひでゆき 1905-1995)。岡は、戦前からアートディレクターとして活躍する一方で、木、竹、藁など自然の素材が生かされたパッケージに魅了され、収集・研究を始め、藁の苞(つと)の素朴な美しさや、すし桶、菓子箱の職人技による伝統美に、日本人ならではの「美意識」と「心」を見いだし、「**伝統パッケージ**」と呼称を与え、書籍の出版や展覧会を通じて、高度経済成長期の日本において消えつつある技術や美があることの啓蒙につとめました。

1970年代半ばには、岡のコレクションは世界巡回展へと発展し、「**TSUTSUMU**」(包む)という言葉とともに大きな反響を呼びます。そして、このコレクションを日本の美術館で初めて本格的に紹介したのは、1988年に当館が開催した「5つの卵はいかにして包まれたか―日本の伝統パッケージ展」でした。これを機に当館は出品されたパッケージ群を岡より譲り受け、「〈包む〉コレクション」として収蔵しています。本展は、2011年にその全容を紹介する展覧会を開催して以来、10年ぶりの展覧です。

「**包むことについて考えるのは、人間の生活のすべてについて考えることに他ならない**」。岡は 前掲書の中でこのように述べています。そして、「**私たちにとって、人間とは何か、生活とは何か、社会とは何かを考えることは、つまりは私たちのこの生をどう包むかという問題だとさえいえるだろう**」と。

今、私たちは新型コロナウイルスの渦中にいます。新しい生活様式で暮らす中、身近なものへの関心や大切な人への想いなどが変化したように感じている方は多いのではないでしょうか。本展で展示するパッケージは、製造されてから30年以上が経ち、自然素材ゆえの色褪せや割れといった経年変化が見られます。しかし、この度の展示で、パッケージに向けられた岡のまなざしと、「包む」ことに込められた日本人の心や手わざの美しさを見つめることは、岡が言うように、私たちの生を考える良い機会と言えるのかもしれません。

目黒区美術館での展覧会場風景（「包む―日本の伝統パッケージ展」2011年2月10日～5月22日）：
右から〈紙〉の展示風景、〈生活の美〉コーナーの展示風景(主に藁)、〈木〉・〈竹〉・〈笹〉・〈土〉・〈藁〉の展示風景

● 岡 秀行の視点

岡が収集した「伝統パッケージ」の特徴は、木、竹、笹、藁などわが国の風土に育まれた自然素材や、陶器、和紙、絣（かすり）など、古来、日本人に馴染みある素材が使われている点がまず挙げられます。

そして、デザインの観点から言うと大きく二つに分けられます。一つは、「生活の知恵の結晶として生み出された形」であるということ。実用性に重きをおき、余計なものが省かれた、シンプルな造形美と機能美を見い出せます。もう一つは、伝統の技と言っても良い「高度な包装技術と美的感覚を持つもの」であるということ。“包むこと”自体に重要な意味づけをしてきた日本人の美意識と、“いかに美しく包むか“という職人や作り手のプライドと手わざの美を見い出せます。

収集を始めた当初は、パッケージの“かたち”の美しさそのものに魅力を感じていましたが、「包むことについて考えるのは、人間の生活のすべてについて考えることに他ならない」（岡秀行「包装の原点」『包』毎日新聞社刊、1972 年）と言うように、岡のまなざしは、しだいに“かたち”の奥にひそむ日本人の「心」へと注がれていきました。

❷《釣瓶鮓》
奈良県／釣瓶鮓弥助

❸《ささらあめ》
宮城県／熊谷屋

❹《澤之鶴》
兵庫県／沢の鶴株式会社

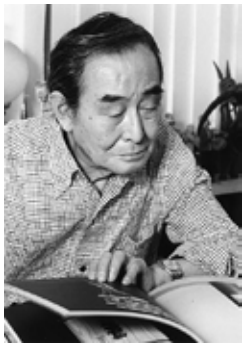
❺《おひねり》

※パッケージの図版写真は、自著・写真集刊行のために岡秀行のディレクションにより主に 1960 年代～ 70 年代に撮影された写真です（撮影者＝酒井道一）。これらの写真は、本展広報や展示会場で使用いたしますが、本展で展示するパッケージ（実物）と図版写真は同一のものとは限りません。

● 目黒区美術館と岡 秀行の〈包む〉コレクション

岡による「伝統パッケージ」の展覧会は、1975 年のニューヨーク、ジャパンソサエティ・ギャラリーでの展覧会（ジャパン・ソサエティ主催）を皮切りに、全米各地を巡回した後、1979 年からは国際交流基金の協賛のもと、1980 年代半ばにかけて世界各国で開催され、高い評価を得ていきました。

この海外での成果を踏まえ、岡とその関係者の方々が日本の美術館での展覧会と収蔵を模索していた時期に、趣旨に賛同した当館が 1988 年に「5 つの卵はいかにして包まれたか―日本の伝統パッケージ」展として開催。これは、日本の公立美術館で岡のパッケージ・コレクションを紹介する最初の展覧会となりました。同展終了後、当館は出品されたパッケージ群を岡より譲り受け、「〈包む〉コレクション」と名付け、以来大切に保管してきました。2011 年に当館で所蔵作品展として〈包む〉コレクションを紹介。2021 年の今回は、当館での三度目の展覧会となります。



書斎での岡秀行
（1980 年代）

■ 岡 秀行（おか・ひでゆき）　1905-1995

1905 年、福岡県生まれ。1923 年に上京し、川端美術学校で洋画を学ぶ。1935 年、図案と写真撮影を行う「オカ・スタジオ」を銀座に設立。アートディレクター・システムを導入したデザイン事務所の草分けとなる。戦後は、グラフ雑誌、宣伝広告、ポスターなどのデザインを広く手がけるほか、図案家のための職能団体確立に尽力。1950 年の日本宣伝美術会の設立に協力、1952 年には東京商業美術家協会（TCAA）を設立し、初代委員長に就任、さらに 1962 年に地方 17 団体 326 人の図案家を結集した全国商業美術家連盟（ACA）を設立するなど、特に独立系の図案家の職能と地位の確立を目指した。

一方で、1950 年代より日本の伝統パッケージの収集と研究をはじめ、1964 年に全国商業美術家連盟（ACA）の第 1 回企画展として伝統パッケージを展示。その後、写真集『日本の伝統パッケージ』（美術出版社、1965 年）や、『包』（毎日新聞社、1972 年）を出版。1975 年、岡 70 歳の時に、ニューヨークから始まり世界巡回した「TSUTSUMU」展は 10 年以上にわたり 28 カ国で開催され、日本の公立美術館では、1988 年に目黒区美術館の「5 つの卵はいかにして包まれたか―日本の伝統パッケージ」展で初めて紹介された。

本展の構成

木、竹、土、藁、紙、布―自然の素材を生かし、職人気質に守られ、昔から「本物」の姿を保ち続けられてきた「日本の伝統パッケージ」の数々。そこに宿る、日本人の自然観と美意識。そして、微妙な手わざによる造形美。本展では、それらを岡秀行の視点を交えながら紹介します。

展示については、岡の収集コンセプトに基づき、パッケージは主に素材別に分けて展示します。包装素材が植物の葉など保管のできないものや一部のパッケージについては写真での展示となる予定です。

❻《岡山獅子》 岡山県／中尾正栄堂

【「岡秀行旧蔵〈包む〉コレクション」の分類】
A：木　　B：竹　　C：その他自然素材　　D：土　　E：藁
F：紙　　G：布　　H：その他

【主な出品物】
「釣瓶鮨」「稲庭饂飩」「金千両」「卵つと」「巻鰤」「ささらあめ」
「御香煎」「柿羊羹」「霞三盆」「大徳寺饅頭」「岡山獅子」「琉球泡盛」
「十六味地黄保命酒」「文楽人形焼」「祝儀袋」　　など約 400 点を予定

※展示するコレクションのほとんどは、食品、菓子、酒類の包装・容器（パッケージ）です。
※一部のパッケージは、経年劣化のみられるものがあるため、現在は製造されていない等入手が困難なものは、実物の展示はなく写真パネルでの紹介とする場合があります。現行商品で同じ仕様のパッケージがあるものは、新しいものを展示する場合もあります。
※展示で使用する写真、本プレスリリース及び本展広報用印刷物などで使用するパッケージの写真はすべて、自著・写真集刊行のために岡秀行のディレクションにより主に 1960 年代～ 70 年代に撮影された写真です。本展に出品する〈包む〉コレクションのパッケージの大半は、それ以降に製造されたものであるため、使用する写真と出品物のデザインや仕様が異なる場合があります。ご了承ください。

関連催事

本展関連催事として、講演会等の開催を予定しています。詳細は決まり次第、当館ホームページに掲載いたします。

広報印刷物・図録

本展のポスター、チラシ等広報物のグラフィックデザインは、direction Q の大西隆介氏に担当していただきました！
（大西氏は 2011 年の「包む」展の広報物と図録のグラフィックデザインも担当）

また、2011 年の図録をベースに、2019 年新装刊行された下記書籍を、当館ミュージアムショップで販売します。本書の装丁も大西氏が手がけています！

『包―日本の伝統パッケージ、その原点とデザイン』(2019 年)

2011 年の図録『包む―日本の伝統パッケージ』、当時、書籍として刊行。

↑こちらの販売はありません。

『包―日本の伝統パッケージ、その原点とデザイン』
編＝岡秀行＋目黒区美術館
発行：株式会社コンセント / 2019 年

同時開催

ワークショップ 2021 夏　「つつむ」

「包む―日本の伝統パッケージ」と同時開催で、ワークショップ「つつむ」を開催いたします。
本展にあわせ、“包む”をテーマに設定し、遊びや体験、考察を楽しめるワークショップ、セミナーの開催を予定。
詳細は決まり次第、当館ホームページに掲載いたします。

開催情報

タイトル	包む―日本の伝統パッケージ
会　　期	2021 年 7 月 13 日[火] ～ 9 月 5 日[日]
会　　場	目黒区美術館（東京都目黒区目黒 2-4-36）
開館時間	午前 10 時－午後 6 時（入館は午後 5 時 30 分まで）
休 館 日	月曜日（ただし 8 月 9 日[月休]は開館、8 月 10 日[火]は休館）
観 覧 料	一般 800(600)円、大高生・65 歳以上 600(500)円、中学生以下無料 ※障がいのある方とその付添者 1 名は無料、( )内は 20 名以上の団体料金 ※目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示頂くと団体料金になります(他の割引と併用はできません)
主　　催	公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館
企画協力	吉田知哉（株式会社コンセント）、佐賀一郎（多摩美術大学）
交通機関	JR 山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営三田線「目黒」駅(西口)から徒歩 10 分 東急東横線・東京メトロ日比谷線「中目黒」駅から徒歩 20 分 東急バス「権之助坂」(目黒通り)下車徒歩 5 分、「田道小学校入口」(山手通り)下車徒歩 3 分

新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、会期等が変更になる場合がございます。
最新の情報は当館ホームページでご確認いただくか、お問い合せください。

広報写真

本プレスリリース掲載の図版写真を本展広報用画像としてご提供いたします。
ご希望の場合は、p.5 の申込用紙をご使用いただくか、下記のお申し込みに必要な情報をお書きのうえ、本展担当者宛メールにてお申し込みください。なお、ご使用にあたっては p.5 の【広報用画像の使用について】の内容をご了承いただくことが条件となります。必ずご確認ください。
また、本展のポスター、チラシの画像も広報用画像としてご用意する予定です。ご希望の方はお問合せください。

お申し込みに必要な情報

- 展覧会名（「包む―日本の伝統パッケージ」展 ）
- ご希望の図版番号
- ご担当者氏名／会社名／住所／ Tel & Fax ／メールアドレス
- メディアの形態（新聞／雑誌／フリーペーパー／テレビ ／ WEB サイト等 掲載媒体の種類）
- 掲載媒体名（雑誌名など）　●発行・掲載・放送予定日

本展の問合わせ先

目黒区美術館　展覧会担当（学芸）佐川 / （広報・事務）竹森・濵
〒153-0063 東京都目黒区目黒 2-4-36　tel. 03-3714-1201(代)　fax. 03-3715-9328
e-mail: mmatoffice@mmat.jp　https://www.mmat.jp

包む―日本の伝統パッケージ　広報用画像申込書

宛先：目黒区美術館　「包む―日本のパッケージ展」担当者　宛
FAX ：03-3715-9328　E-mail：mmatoffice@mmat.jp

■ 本票に必要事項をご記入のうえ、上記宛先まで FAX でお申し込みいただくか、メールにて本票と同内容の事項とご希望の図版番号をお知らせ下さい。掲載紙・誌を 1 部ご寄贈くださいますようお願い申し上げます。

お申し込み日	年　月　日		
御 社 名			
ご担当者氏名			
住　所	〒		
TEL		FAX	
E-mail			
掲示媒体名 （雑誌名など）			
メディアの形態	【紙媒体】 新聞 ／ 雑誌 ／ ミニコミ誌 ／フリーペーパー ／ その他 （　　） 【電子媒体】 テレビ ／ ラジオ ／ WEB サイト ／ 携帯サイト ／ その他（　　）		
発行・放送予定日	年　月　日		
ご希望の画像	図版番号 ① ～⑥ のご希望の図版番号をご記入ください	使用条件等 ＊写真画像への文字載せは不可です。 ＊原則、写真の画像加工（トリミング・色調整など）は不可。但し、モノクロで使用の場合は、コントラスト、ガンマ値の適宜調整を許可する場合があります。 ＊キャプション、クレジットは必ず明記してください。	
連 絡 欄			

■ お申し込み受け付け後、画像データ（JPEG）のダウンロード先を返信でお知らせいたします。
お手元の環境等によりダウンロードできない場合は別途ご連絡ください。

■ 使用にあたっては、【広報用画像について】の内容をご了承いただくことが条件となります。
必ずご確認いただきますようお願いします。

【広報用画像について】

・画像データはメールにて送付いたします。
・画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
・データを第三者に渡すことは禁止いたします。
・使用後、データは破棄してください。
・展覧会の名称、期間、会場などの情報は分かりやすく掲載してください。
・画像への文字載せは不可です。
・画像使用の際は、キャプション、クレジットを明記してください。
・掲載誌（紙）は 1 部、当館担当者までお送りください。
・Web サイトは公開後に URL　をお知らせください。
・当館が掲載内容を確認できるように、掲載前に校正をお送りください。

◎ 本展を紹介してくださる媒体には、展覧会の招待券（5 組 10 名様）を読者プレゼント用に提供いたします。
ご希望の方は下記にご記入ください。

読者プレゼント用招待券を［ 希望する ・ しない ］

＜広報用画像に関する問い合わせ先＞

目黒区美術館
TEL.03-3714-1201 / FAX.03-3715-9328
展覧会担当（学芸）：佐川
（広報・事務）：竹森・濵